



被害者にも、加害者にもならないために



集团的自衛権行使の閣議決定、安保諸法案の強行採決は許せるものではありません。

「石川文洋講演会&写真展」を企画し、実行委員会で取り組むこととしました。講演会のテーマは「戦争法で見る日本のこれから」、写真展は「戦争と子ども」としました。

石川文洋さんには当誌に毎月ご執筆いただいておりますので、これを機会に大胆に当誌を知らせていこうとしました。呼びかけ人や賛同人を引き受けていただくなどのなか、新たに多くの方と知り合うことができ、参加者は延べ343名で大成功でした。

講演では、国会審議で危険な場所には近づかないと答弁しているが、そんなことはできないと批判し、ベトナム

ム戦争では補給部隊も戦闘部隊と同じであり何度も攻撃を受けた。自分が乗っていたジープを降りてから数分後には攻撃された。200万人の民間人が犠牲になったと言われ、その多くが沖繩の基地から派遣した米軍と、基地から出撃したB52の爆撃によるものだったと日本の関与を指摘しています。辺野古新基地をつくることで、沖繩は加害者になってはいけません。沖繩の問題を日本全土の問題として考えてほしい。「命こそ宝」とのお話しでした。石川文洋さんは、現在も学校に行き戦争のお話を続けているとのことでした。

私たちも、被害者にも加害者にもならないために、今こそ声を上げ続けましょう。あきらめることなく、ますます大きな声で広げましょう！

「石川文洋講演会&写真展実行委員」 荒畑 正子